

民主島根

2016年
4.10
第1260号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

安保法制廃止し、立憲主義・民主主義の回復へ

4党(共産・民進・社民・新社会)が共同アピール

参院選挙区 福島氏を野党統一候補に

参院鳥取・島根選挙区(改選数1)で、鳥取、島根両県の市民と元消費者庁長官の福島浩彦氏(59)、日本共産党、民進党、社民党、新社会党の4野党が一堂に会した「市民と野党の集い」が3月31日、松江市で開かれ、福島氏を市民と野党の無所属統一候補として擁立することを発表しました。

首の合意にもとづいて、福島氏の勝利に全力を挙げるとの共同アピールを発表。「安保法制廃止」「立憲主義・民主主義の回復」「安倍政権の打倒」へ、「立場の違いをこえて力をあわせましょう」と呼びかけました。

市民団体「住民目線で政治を変える会・山陰」共同代表の吉岡古都さん(50)は「安倍政権の暴走を止めるには選挙に勝つしかない。福島さんを私たちの代表として国政に送り込みたい」と訴えました。

福島氏は「政治の流れをしっかりと変えていく第一歩にしなければならぬ。多くのおみなさんと力をあわせて、その先頭に立ちたい」と表明しました。



福島氏(中央)を中心にスクラムを組む(左から)小村勝洋日本共産党鳥取県委員長、後藤勝彦同島根県委員長、民進党、社民党、新社会党の代表と市民の代表ら。(松江市)

日本共産党は後藤勝彦島根県委員長、小村勝洋鳥取県委員長が出席。選挙区での立候補を3月22日に取り下げ、比例区で活動する遠藤秀和氏の「野党共闘の実現をうれしく思いま

利のために私もがんばります」とのメッセージを紹介し、福島氏は「遠藤さんの思いもすっかり受けとめ、がんばりたい」と応

えました。シールズの本間信和さん(21)が東京から駆け付け、歓迎のメッセージを述べました。

戦争法の発動は許さない 党県委、総かかり行動などが宣伝

戦争法が施行された3月29日、日本共産党島根県委員会は松江市で戦争法施行に抗議する街頭宣伝を行いました。(写真)

遠藤秀和党県政策委員長、尾村利成、大國陽介の両県議、片寄直行、吉儀敬子の両市議、後藤勝彦県委員長がマイクを握り、「力をあわせて、憲法違反

の戦争法を廃止させましよう」と訴えました。遠藤氏は「参院選で戦争法に賛成した自民・公明を少数に追い込み、安倍政権退陣で新しい扉を開こう」と呼びかけました。

また、松江、安来、大田の各市では、総かかり行動実行委員会が宣伝し、2000万署名を呼びかけました。



松江市では16人が宣伝。渡部節雄さん(82)は「このまま日本を戦争できる国にしてい

いでしようか。76年前、私が小学3年の時、父は中国で戦死しました。あんなことは絶対にしてはいいない」と訴えました。

戦争法廃止へ声あげよう Act!山陰ユース結成

島根県と鳥取県の青年が安保法(戦争法)廃止へ声をあげようと、松江市で「Act!山陰ユース」(仮称)をこのほど結成しました。立ち上げたのは鳥取大学の学生、高校生、松江市の青年ら9人。

古久保遼さん(鳥取大2年)が安保法廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回、民主主義と立憲主義を取り戻すことを目的に行動する、野党統一候補を応援する一などのアピールを提案し、拍手で承認されました。4月に新入生など新しい仲間を迎え、学習・交流会を開くことなども相談しました。

鼓動


2000万人を目標に全国でとりくまれていく「戦争法の廃止を求める統一署名」。わずか4カ月余で全国500万筆を突破し、5月3日の憲法記念日に2千万筆達成をめざし、とりくみが加速している。党島根県委員会集約分だけでも3月時点で2万筆を超えた。諸団体の集約分を合わせれば島根でもさらに広がっているだろう▼1950年に世界で5億筆を集めた核兵器禁止を求める「ストックホルム・アピール」は日本で640万筆、島根県で約2万9千筆が集まった。今回の「2000万署名」はこの

力あわせ、未来ひらく。

日本共産党演説会


5月15日(日)
●午前10時30分～
出雲市・朱鷺(とき)会館
●午後2時～
松江市・松江テルサホール

弁士
紙智子参院議員
春名なおあき元衆院議員
遠藤秀和党県政策委員長



5月22日(日)
●午後2時～
浜田市・いわみーる体育室

弁士
大平喜信衆院議員
春名なおあき元衆院議員
遠藤秀和党県政策委員長



のとりくみをさらに上回ろうという歴史的な取り組みになっている▼「9」のつく日に街頭でみんなの手分けして全戸を訪問して。知人にコツコツよびかけて。色んなやり方で、多くの人が「戦争法の廃止」「立憲主義の回復」を願って行動にふみだした。街頭では若い皆さんが次々に署名に応じる姿も▼戦争法の施行を強行した安倍政権は、戦争法廃止法案の審議に応じようとさえしていない。海外に派兵された自衛隊員が殺し殺される現実の危険が迫つたいま、「2000万人署名」のとりくみがいよいよ重要になってきた▼「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン、それで世界を変えられる」。ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんは16歳の時、世界に訴えた。歌手の美空ひばりさんは「一本の鉛筆があれば戦争は嫌だと私は書く」と歌った。どんな強力な「武器」よりも「一本のペンによる署名」が集まってこそ、人の心を揺さぶり、平和を築く巨大な力になる。(後)